

災害教訓の継承に関する専門調査会報告書原案

# 「1662 寛文二年近江・若狭地震」

## 寛文2年(1662)近江・若狭地震に関する報告書の構成案

災害教訓の継承に関する専門調査会小委員会  
「寛文2年近江・若狭地震」分科会  
西山昭仁（主査），小松原 琢，寒川 旭，水野章二，北原糸子

### ．はじめに

#### 1．地震発生当時の時代背景〔水野，西山〕

当時の近江・若狭・京都などの政治的・社会的背景の概要．

#### 2．地震の被害状況〔西山〕

寛文2年（1662）近江・若狭地震の被害状況の概略．

- ・発生日時：寛文2年5月1日の午刻頃．

グレゴリオ暦：1662年6月16日の午前11時～午後1時頃．

- ・琵琶湖西岸地域を中心として，畿内一円に被害を及ぼした内陸地震であり，特に近江国（滋賀県）や若狭国（福井県南部）での被害が大きく，また，山城国（京都府南部）や摂津国（大阪府北部）でも被害が生じていた．

#### 3．地震のメカニズム

近江国西部で甚大な被害を蒙っていたことから，「寛文2年の琵琶湖西岸の地震」とも呼称されているが，最近の活断層発掘調査（トレンチ調査）の成果から，この地震の震源となった活断層を想定し，自然科学の立場から考えた地震像を概説する．〔小松原〕  
琵琶湖周辺地域の地震活動に，寛文2年近江・若狭地震がどのように位置付けられるのかを検証する．〔寒川〕

### ．朽木谷での被害状況

史料：『明王院文書』，『かなめいし』etc.

参考文献：宮寄源太郎『町居の今昔』（私家版）

#### 1．葛川の時代背景〔水野〕

葛川は，安曇川上流の山間部に位置する天台修験の道場の地であり，現在においても，千日回峰行に代表される天台行者の行場である．中世には山林資源をめぐる種々の紛争を起こしたため，多くの文書史料や植生などが描き分けられた詳細な「葛川絵図」が残されており，地震以前の地域の状況もある程度確認することができる．

#### 2．葛川谷での「町居崩れ」の発生〔北原，西山〕

葛川谷（安曇川上流部）での大規模斜面崩壊「町居崩れ」の被害状況．

- ・朽木谷全体での被害状況．
- ・「町居崩れ」による被害とそれによって形成された天然ダム，更にその天然ダムの決壊による被害．

### 3．地震のメカニズムと震災との関係〔小松原〕

朽木谷を通過して北北東 南南西に伸びる花折断層について，トレンチ調査の結果を紹介し，この断層が寛文2年近江・若狭地震で活動し，朽木谷での被害の原因となったことを述べる．

### 4．町居村の復興過程〔西山〕

町居村の埋没と震災後の移転・復興について検証する．

#### ．琵琶湖沿岸での被害状況

史料：『元延実録』，『談海集』，『かなめいし』etc.

### 1．琵琶湖周辺の時代背景〔水野〕

北国・東国と畿内の接点にあたる近江国は，京都を核とする水陸の交通や流通，社会的分業が発達し，惣村を典型的に発展させた地域である．西廻り航路が開かれるまで，日本海側からの物資は，越前国の敦賀や若狭国から，琵琶湖を経て京都へ送られたが，今回の地震はこの輸送の大動脈に大きな打撃を与えた．

### 2．琵琶湖沿岸での被害と震災対応

考古学の発掘成果から窺える湖岸の自然環境．

- ・琵琶湖では，地殻の傾動運動や降水量などの水収支，大規模地震による地盤変化や流域ごとの堆積と沈下のバランスなどにより，水位・汀線が変動しているが，湖中には100ヶ所あまり湖底遺跡が存在しており，それにともなう水没村(千軒)伝承も多く残されている．近年の研究をふまえ，寛文2年近江・若狭地震によって起きた現象を確定し，その影響を明らかにする．〔水野〕

琵琶湖西岸地域での被害状況について，検地帳などから分析する．〔北原〕

当時の大津・膳所・彦根など，諸都市の震災からの復興について述べる．〔西山〕

大溝での地震発生前後における絵図について検討する．〔寒川〕

### 3．地震のメカニズムと液状化現象の実態

琵琶湖の西岸に沿って伸びる琵琶湖西岸断層について，トレンチ調査の結果を紹介する．〔小松原〕

- ・この断層が近江・若狭地震で活動したという積極的な証拠は得られておらず，断層活動が水没の直接的な原因になっていない可能性が高い．

近江・若狭地震は琵琶湖周辺に激しい地震動を与えており，この結果，琵琶湖周辺の沖積地盤に地盤災害（液状化現象）の痕跡が多く発見されている．これらの痕跡について紹介する．〔寒川〕

## ．三方五湖での地変と震災対応

史料：『酒井家編年史料稿本』，『拾椎雑話』，『若狭漁村史料 加茂文書』 etc.

### 1．若狭の時代背景〔未定〕

各村の生業など社会的・経済的背景について述べる．

### 2．地変の成因〔小松原〕

三方五湖の東で南北方向に伸びる三方断層について，トレンチ調査の結果を紹介し，この断層が寛文2年近江・若狭地震で活動して，三方五湖における地変の原因になったことを述べる．また，具体的な地変についても紹介する．

### 3．地盤隆起による気山川の閉塞と浦見坂の開削工事〔未定〕

気山川の閉塞による湖水位（水月湖，三方湖）の上昇．

湖岸諸村の震災（＋水没）からの復興と新田開発．

新田と漁場とをめぐる争論の発生（新田開発の後世への影響）．

## ．京都での被害状況と震災対応

史料：『元延実録』，『厳有院殿御実紀』，『続史愚抄』，『鴨脚家文書』，『かなめいし』 etc.

### 1．京都の時代背景〔西山〕

古代からの都である京都は，この当時，約36～38万人の人口を有する商工業都市として発展しており，大坂と並ぶ上方経済の中心地であった．人口の密集した大都市であったことも影響して，今回の地震によって大きな被害が生じていた．

### 2．京都盆地での被害状況と活断層〔小松原，寒川〕

近江国西部の朽木谷から続く花折断層のうち，寛文2年近江・若狭地震で動いたのは北半分のみであり，南半分は動いていないことから，今後の活動によっては，京都の市街地が大きな被害を受けることが予想される．

### 3．幕府・諸藩の対応〔西山〕

畿内での震災に対する江戸幕府の対応策．

#### ・幕府の対応を受けた諸藩の対応．

被害情報の江戸への伝播とそれを受けての対応．

#### ・二条城の被害報告や御所の安否確認など．

### 4．朝廷・寺社での対応〔西山〕

天皇・上皇や公家などの地震直後の行動（仮屋・庭上への避難など）．

地震祈祷など，寺社における地震の鎮静化を目的とした儀礼的な対応．

### 5．民衆の震災対応と地震の捉え方〔西山〕

京都での被害事例と避難状況

- ・京都市中では建造物の被害によって、多数の死傷者（死者約200人）が発生しており、民衆は路上や河原に仮屋を構えて避難。  
地震後、京都市中で発生した流言などについて。  
今回の震災に対する当時の人々の捉え方。

・おわりに - まとめと今後の課題 - [暫定案]

### 1．被害形態による分類

地変による被害（斜面崩壊，地盤の隆起・沈降・液状化）

- ・推定震源近傍の近江国西部や若狭国で発生。

建造物の大破・倒壊

- ・人間が居住している村落・都市で多発。
- ・推定震源からやや離れている京都・大坂などでも被害が発生。

人口密集地である大都市（約36～38万人・約27万人）であったことが要因。

### 2．震災対応の地域的特性

村落での震災への対応策

- ・震災による村落の移転や，震災後の生活基盤の復興。

城下町や都市での震災への対応策

- ・被害 大：小浜・大津・膳所・京都
- ・被害 小：彦根・大坂

被害程度の格差は，震災対応にどのような影響を及ぼしたのか。

### 3．今後の課題

17世紀半ばに発生した寛文2年（1662）の近江・若狭地震の際に実施された震災対応やそれに基づいた地震への教訓が，それ以後に畿内近傍で発生した地震の際にはどのように適用されていたのか，或いは適用されていなかったならば，その理由は何であったのかについて検討する必要がある。

{ } は執筆予定者。

以上

## 【参考文献】

- 三木晴男「江戸時代の地震災害 寛文二年五月一日近江地震の場合」『歴史災害のはなし』  
(思文閣出版, 1992年) P77 - 169 .
- 今村隆正・井上公夫・西山昭仁「琵琶湖西岸地震(1662年)と町居崩れによる天然ダムの形成  
と崩壊」『歴史地震』第18号(2002年) P52 - 58 .
- 浅井了意『かなめいし』(三巻三冊), 朝倉治彦・深沢秋男編『仮名草子集成 第十八巻』  
(東京堂出版, 1996年) P175 - 219所収 .

## 艱難目異誌上巻目録

### 序

- 一 地震ゆりいだしの事
- 二 京中の町屋損ぜし事
- 三 下御霊にて、子どもの死せし事
- 四 室町にて女房の死せし事
- 五 大仏殿修造并日用のもの、うろたへし事
- 六 耳塚の事并五條の石橋、落たる事
- 七 清水の石塔并祇園の石の鳥居倒事
- 八 八坂の塔修造并塔の上にあかりし人の事
- 九 方々小屋がけ付門柱に哥を張ける事
- 十 光り物の、とびたる事

## 夏難免怡詞中巻目録

- 一 五月四日大ゆりの事
- 二 伏見の城山、南へうつり行ける事
- 三 加賀の小松の庄大水の事
- 四 越前敦賀の津并江州所々崩し事
- 五 朽木并葛川、ゆりくづれし事
- 六 地の裂たる所へ踏入し事并米俵をゆり入し事
- 七 豊国八、なゆのゆらずとて、諸人参詣の事
- 八 京の町説さま / \ の事

## 可名免為誌下巻目録

- 一 地震先例付地しん子細の事
- 二 諸社の神託の事
- 三 妻夫いさかひして、道心おこしける事
- 四 なゆといふ事付東坡の詩の事